

家畜の生産性を維持・向上する暑熱対策に取り組みましょう

今年も暑い夏がやってきました。昨年7月から8月の熊谷地方気象台で記録された真夏日（最高気温30度以上）は46日で、そのうち猛暑日（最高気温35度以上）は19日でした。この暑さは、家畜にも暑熱ストレスとして様々な影響を与えます。

今回は暑熱対策について、実践されている方法を紹介します。

【畜舎環境面から】

畜舎外からのアプローチで畜舎温度を下げる方法は、樹木等の植栽や遮光ネットの設置、屋根や壁への断熱資材の設置や石灰乳塗布、スプリンクラーを利用した畜舎屋根への散水などが有効です。



植物を畜舎前に設置



屋根・壁に石灰乳の塗布



スプリンクラーの設置

【飼養管理面から】

家畜の密飼いを避け、涼しい時間帯に良質で消化率の高い飼料を給与することも大切です。食欲不振により栄養不足になることもあるので、必要に応じてビタミンやミネラルを補うことも検討しましょう。